

*新澤裕子¹、古宇田光¹、佐藤立子²、鈴木博之¹、東野陽子³、中井紗織⁴、野上識¹、平澤加奈子⁵、村山育子⁶、湯越智子⁷

1. 東京大学リサーチ・アドミニストレーター推進室、2. 東京大学宇宙線研究所、3. 東京大学地震研究所、4. 東京大学生産技術研究所、5. 東京大学史料編纂所、6. 東京大学先端科学技術研究センター、7. 東京大学大学院工学系研究科

多彩なURAが集まる東京大学の認定制度

東京大学リサーチ・アドミニストレーター制度に関する実施方針
(平成28年役員会議決)

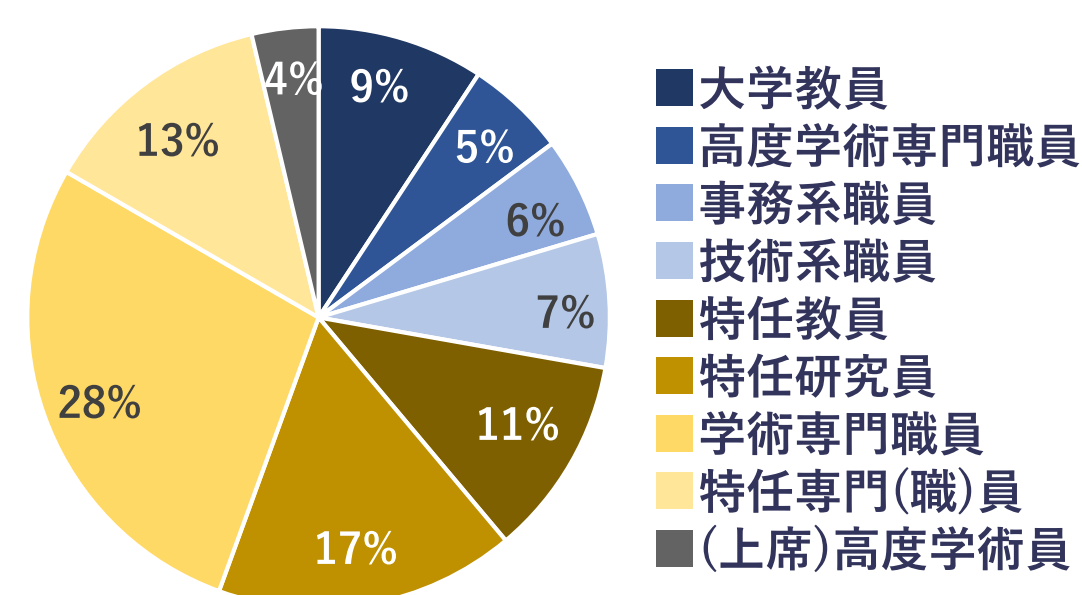
URAの定義のもと認定

能力・経験・適性等に応じた
3つの区分
URA・シニアURA
プリンシパルURA

(URAの定義)
第1条 本学において、URAとは、総合大学である本学の学術研究に係る諸活動を幅広く推進し、学術研究を安定的かつ継続的に進展させることを目的として、高度な専門性を持って、次の各号に定める業務を主体的に行う能力を有する者である。

54名の認定URAが学内に在籍 (令和4年8月時点)

多様な職名 認定URAの職名分布

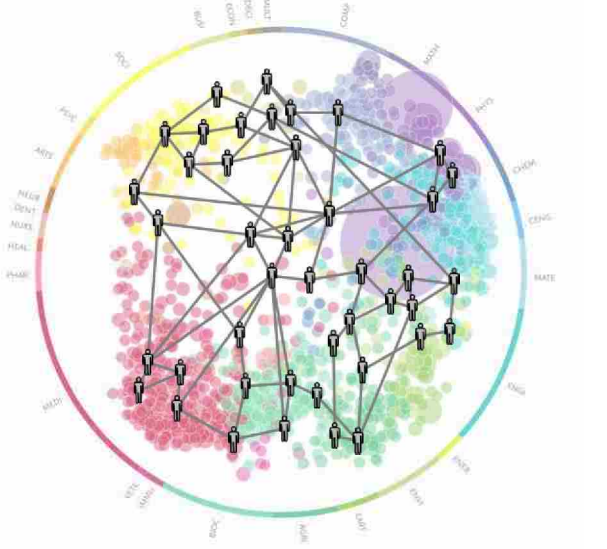


多様な所属 認定URAの部局分布

部局	プリンシパルURA	シニアURA	URA
URA推進室	■	■	■
産学協創推進本部	■	■	■
本部事務組織	■	■	■
医学部研究科	■	■	■
医学部附属病院	■	■	■
工学系研究科	■	■	■
人文社会科学系研究科	■	■	■
理学系研究科	■	■	■
農学生命科学研究科	■	■	■
経済学研究科	■	■	■
数理学研究科	■	■	■
新領域創成科学研究科	■	■	■
医科学研究所	■	■	■
地震研究所	■	■	■
東洋文化研究所	■	■	■
社会科学研究所	■	■	■
生産技術研究所	■	■	■
史料編纂所	■	■	■
宇宙線研究所	■	■	■
定量的生命科学研究科	■	■	■
物性研究所	■	■	■
大気海洋研究所	■	■	■
先端科学技術研究センター	■	■	■
未来ビジョン研究センター	■	■	■
高齢社会総合研究機構	■	■	■

弱い紐帯の強みUTRA (The University of Tokyo Research Administrators)

- 認定によって互いの存在が可視化され、ネットワークでつながる
⇒ 認定制度がなければ互いを知り得なかったケースも
- 毎年の認定や転出によって変化し続ける (H28 15名 ⇒ R4 54名)
- (URAとしての採用如何にかかわらず) “URAに認定された人達”が学内に分散して存在 ⇒ 認定後が重要
- URA推進室のURAをハブとして、ネットワークでの取組を継続



UTRAネットワークは「弱い紐帯の強み」である。
(学内向けURAシンポジウムでの執行役・副学長のコメント)

認定URAへのインタビューより

認定されると、身の回り半径数メートルでなくて、他のURAの仕事の仕方が垣間見え、広げることができる。取り入れるべき知識や技術を知ることができる。

既存の組織としては独立した形で、ふわっと横につながっているのは重要。なくても問題は起きないが、気づいていないだけで「重要な機会損失」が起きているのではないかと。

フラットに意見交換できる存在、絆、信頼感、ベースの意識みたいなものが、学内のURAのコミュニティにはあるのではないかと。「URAです」ということでまず一歩。業務紹介で相手の仕事のある程度知っているということ、さらに一歩、所属組織の長の上での、ある程度立場を超えた連携・協力ができると考えている。

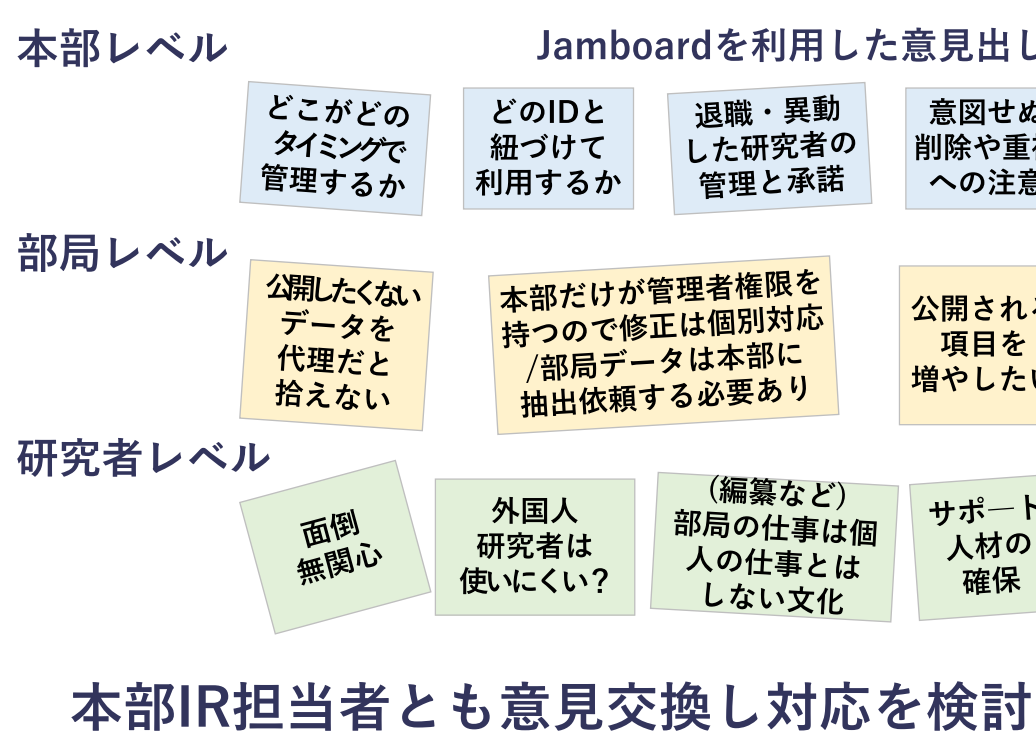
専門知/実践知のつながり：研究IR

情報・ノウハウ共有は全学・全部局共通の課題

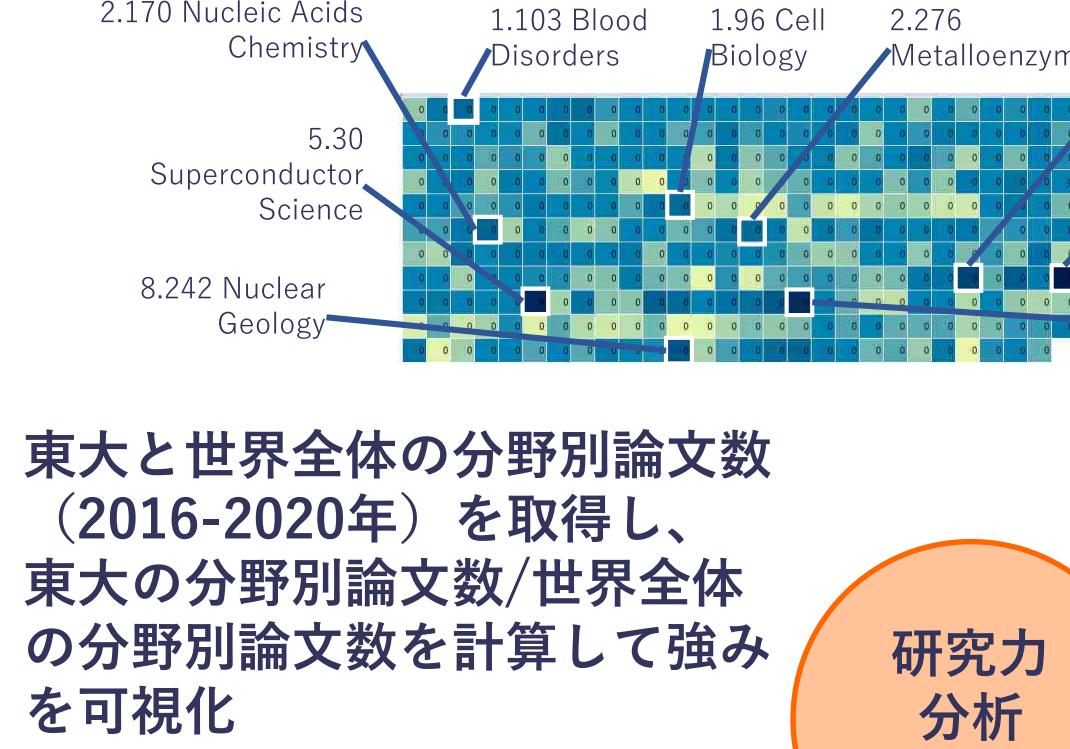
現場での取組みを全学IRへつなぐ体制構築へ

- 文献情報データベース (Web of Science, Scopus, CiNii等) の使い方や個人が行った分析の事例紹介、情報共有
- 他大学のURAから業績収集の事例を紹介してもらおう勉強会も実施
- Teams内の研究力分析チャネルに投稿された悩みごとや共有したい情報などから、研究力分析勉強会へとつながることも多い

例1) researchmap：利用での困りごと・課題の共有



例2) citation topicsを使った分析：東大発論文の分野別シェア

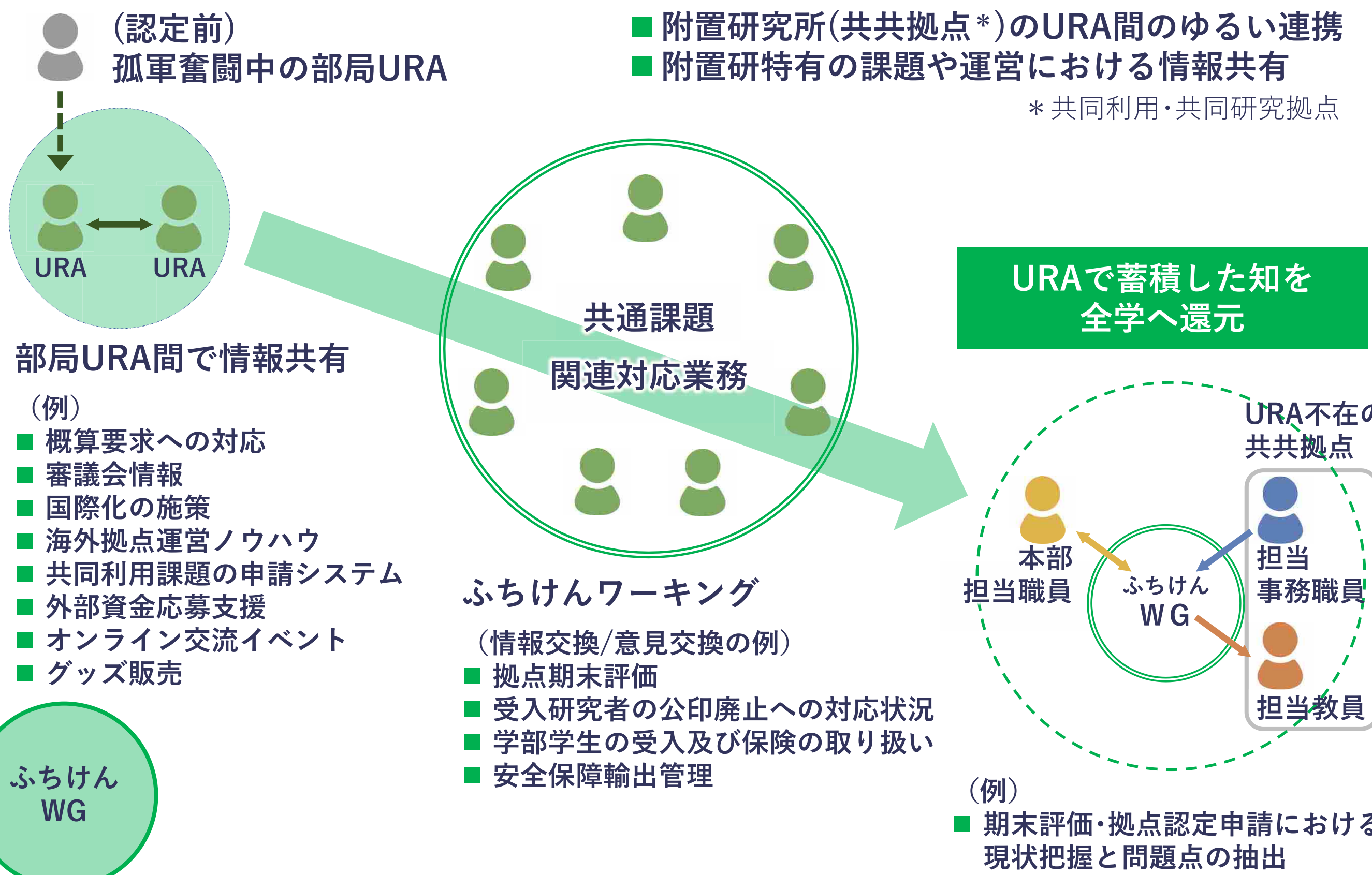


東大と世界全体の分野別論文数 (2016-2020年) を取得し、東大の分野別論文数/世界全体の分野別論文数を計算して強みを可視化

UTRA

The University of Tokyo Research Administrators

研究所間のつながり：ふちけんワーキング



現場と全学施策のつながり：研究データ管理

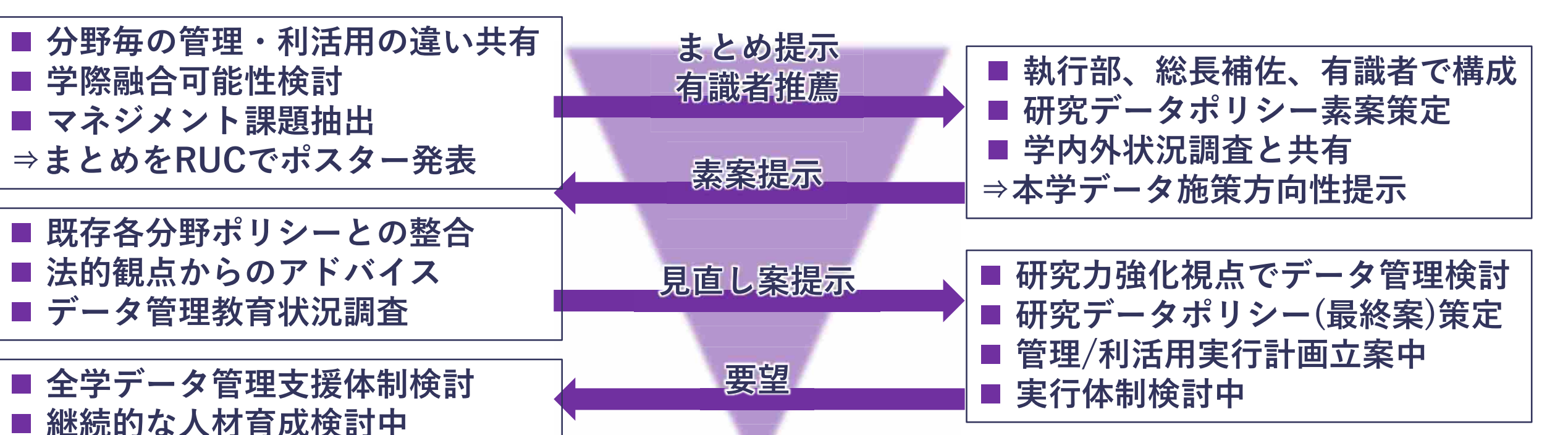
URA×研究者×執行部で実効性のある施策提案

国の政策
研究の自由と多様性を尊重し、国際的な貢献と国益の双方を考慮に入れた、オープン・アンド・クローズ戦略に基づく研究データの管理・活用の実行

UTRAワーキング

本学の施策検討

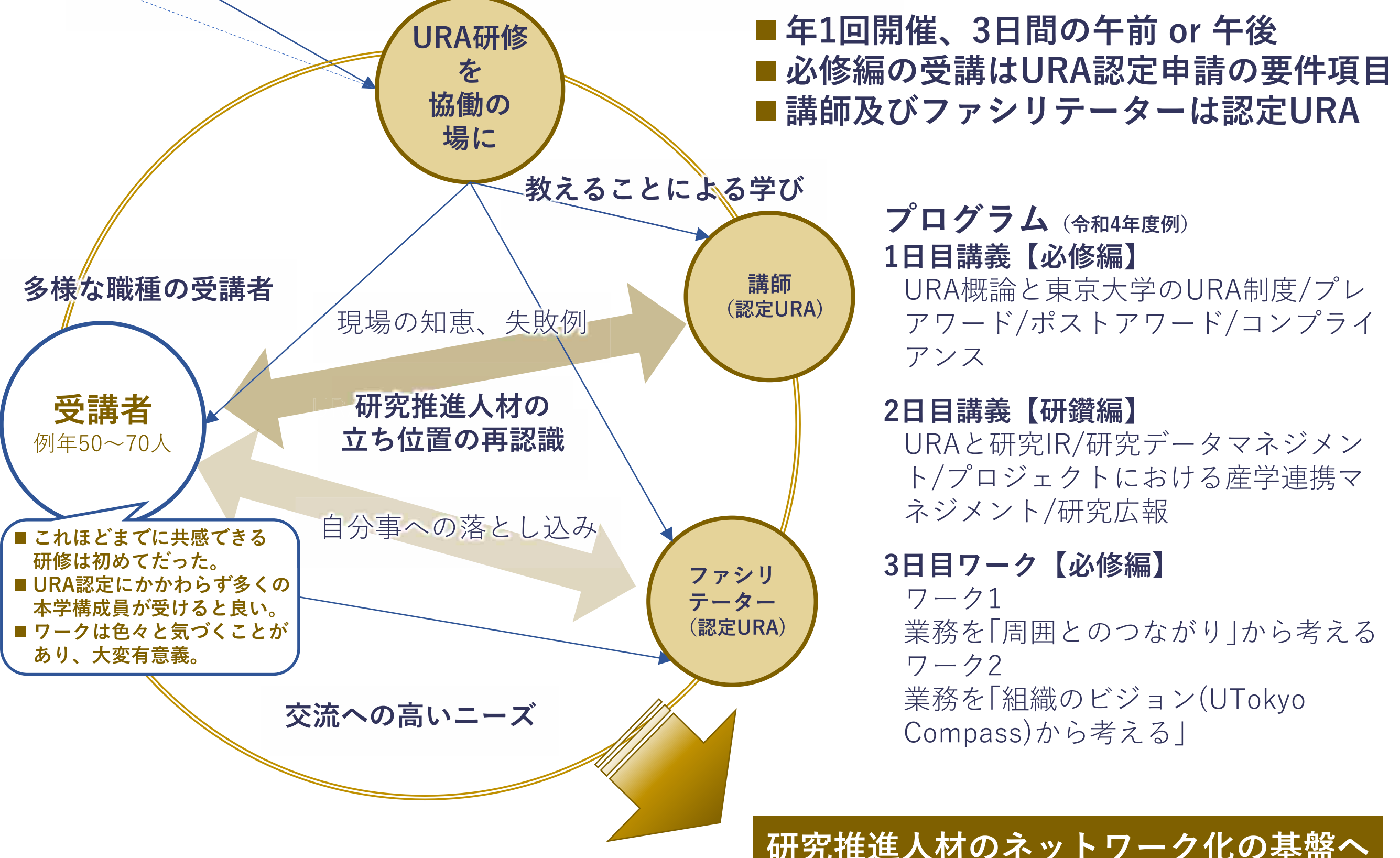
全学ワーキング



2022年度中に施策具現化へ

研究推進人材のつながりの基盤：URA研修

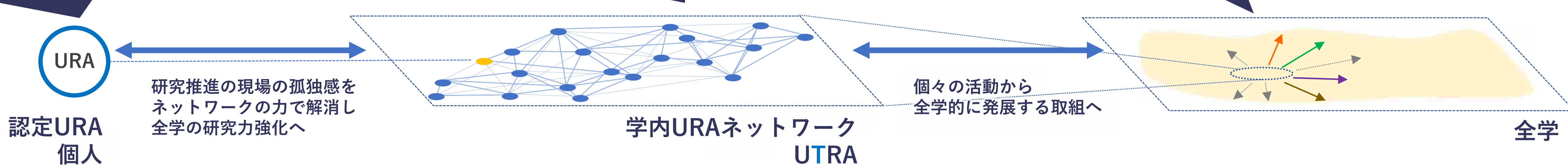
- 年1回開催、3日間の午前 or 午後
- 必修編の受講はURA認定申請の要件項目
- 講師及びファシリテーターは認定URA



研究推進人材のネットワーク化の基盤へ

まとめ：ゆるくつながり研究力強化を牽引する「専門人材群」

- 1 認定によってネットワークに参画
しかし「認定しただけ」では真価は発揮されない
“ほかのメンバーはどんな人？”
“業務上の課題、相談しても大丈夫？”
- 2 オンライン活用等により心理的距離が縮まり
ネットワークが深化
“安心して相談できる場、協働できる場だ”
- 3 UTRAを核とした
研究推進人材のボトムアップ強化へ……！



本発表へのコメントをお寄せください

Webフォームあります>>>

